

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国語	現代の国語	1・2年 福祉科	3単位	新編 現代の国語（数研出版）	常用漢字ダブルクリア （尚文出版）

到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えをまとめ、深めて目的や場面に応じて的確に話したり、聞き取ったりしている。 「書くこと」において、相手や目的に応じて適切に文章を書くことができる。 「読むこと」において、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1の評価に2および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単元	学習内容	学習到達目標
書き手の意図をつかむ	目指す世界の地図を作る	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を整理して、伝え合う内容を検討している。
日常の中の文章	◆わかりやすく話す ＊スピーチ 写真を文章で説明する	・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
文章の展開を把握する	時間とは何か	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
日常の中の文章	◆メモをとりながら聞く 広告コピーを書く	・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理している。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。

書き言葉の技術	*文章トレーニング1 文章構造を理解する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。
対比を読み取る	水の東西	
社会の中の文章	文章の構成を工夫して提案する	
日常の中の文章	表現の工夫を読み取る 〈新聞〉	
コミュニケーションと言葉	世間話はなぜするか	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・「書くこと」において、事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
	非言語コミュニケーション	
	◆適切な書式で通知する	
書き言葉の技術	*文章トレーニング2 要約する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
言葉の働きをとらえる	コインは円形か	
書き手の考えを比較する	科学と非科学	
	◆必要な情報を整理して書く	・「書くこと」において、事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
根拠を読み取る	「わらしべ長者」の経済学	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開を評価するとともに、情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
書き言葉の技術	*文章トレーニング3 比較する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国 語	言語文化	1・2年 福祉科	2単位	新編言語文化 (数研出版)	ビジュアルカラー 国語便覧 (大修館書店)

到達目標	① 国語の知識や技能を身に付け、理解を深める。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。目的に応じて、様々な文章を的確に読み取ることができる。 「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1の評価に2および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単元	学習内容	学習到達目標
地域の「ことば」	「とんかつ」 5級漢字	・登場人物の行動や言葉から、物語の流れを理解し、心情を読み取ることができる。
古文の世界を楽しむ	「古文に親しもう」 「児のそら寝」 4級漢字	・歴史的仮名遣い、文語と口語の違いを理解する。 ・古文に親しみをもち、話の面白さを理解する。
日本語の中に生きる漢文	訓読のきまり 「格言」	・訓点の意味、書き下し文を理解する。 ・格言のもとになった話を理解する。
受け継がれる古典	「羅生門」 4級漢字	・主人公の心理と行動の変化を正確に読み取り、情景描写に留意しながら文学作品を読むことができる。 ・主人公の心情を場面ごとに考えることができる。

詩歌を味わう	「短歌」「俳句」 「詩歌の魅力」 3級漢字	・朗読により詩のリズムを味わう ・詩の主題を捉え、解釈を深める。 ・韻文の特徴を知り、心地よいリズムを味わうとともに、言葉から情景と心情を読み取る。
現代にも生きる教え	「高名の木登り」 「ある人、弓射ることを習ふに」	・作者の人生観や古典の世界観を味わい、意欲的に読み進めることができる。 ・敬語の種類、副詞の呼応等を理解する。
故事と成語	「助長」 「漁夫の利」 3級漢字	・故事成語のもとになった話を理解する。 ・学習した故事成語と現代の日本語との関わりについて理解を深める。
ことばを吟味する	「舟を編む」	・辞書編纂という仕事の内容を読解することで、日本語の持つ文化的背景について理解を深める。
古文の世界を楽しむ	「検非違使忠明」 3級漢字	・古典特有の表現などについて理解することができる。
語感を磨く	「側転と三夏」	・小説の中にある俳句の特性を理解する。 ・小説と俳句の融合といえる本作品から、言語文化のつながりと流れを感じ取る。
故事と成語	「虎の威を借る狐」	・故事成語のもとになった話を理解する。
記録する文学	「沖縄の手記から」 3級漢字	・異なる立場や考え方を持つ登場人物たちの心の動きを、会話や情景描写から読み取る。 ・戦争小説の読解を通して、平和についての思索を深める。
昔と変わらない人の心	「芥川」	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。
論語の言葉	論語 準2級漢字	・儒学の祖である孔子の思想を知り、考えることができる。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地理歴史	地理総合	3年 農業環境科 3年 福祉科	2単位	「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」(二宮書店)、「基本地図帳」(二宮書店)	「最新地理図表 G E O」(第一学習社)

到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	---

評価の観点	知識・技能【A】	思考・判断・表現【B】	主体的に学習に取り組む態度【C】
	知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

学習の評価	出席状況、定期考査、提出物の内容・提出状況、授業態度などを総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
1章 地図とGISの活用	1節 地理情報と地図 2節 国家の領域と領土問題 3節 国内や国家間の結びつき 4節 日常生活のさまざまな地図	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。
2章 生活文化の多様性と	1節 自然環境と生活文化 2節 産業の発展と生活文化 3節 言語・宗教と生活文化 4節 グローバル化の進展と生活文化	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。

国際理解		世界の言語・宗教の特徴と分布，生活文化との関係を考え，その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また，現代社会における言語・宗教の変容を動態的に捉え，主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語，宗教対立，移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し，互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し，考察する。 EUの統合による産業や生活文化への影響，そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し，ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容，EUと日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し，グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え，アメリカ合衆国の変容，日本とのつながりについて考察する。
3章 地球的課題と国際協力期	1 節 人口・食料問題 2 節 居住・都市問題 3 節 資源・エネルギー問題 4 節 地球環境問題	世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し，人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また，人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して，各国の人口政策や諸問題について比較し，理解を深める。持続可能な発展のために，飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際，モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら，グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。 都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに，人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。また，途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し，その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら，解決の方策を構想する。 エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し，主題図や統計資料をもとに資源の偏在性，有限性，そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために，化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し，国際協力の必要性，日本とのつながりについて考察する。 地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など，地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには，国際的な協力体制が必要なだけでなく，その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また，環境問題と自分自身とのつながりを意識し，SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。
4章 生活圏の諸課題	1 節 自然環境と防災 2 節 持続可能な地域づくり	日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について，主題図やグラフ，写真などの資料から理解する。また，日本列島では自然による恩恵だけでなく，風水害，火山，地震・津波，都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え，その要因と特徴，災害の地域性，防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し，自らの生活圏の防災について考察し，表現する技能を身につける。 生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し，身近な地域の魅力やかかえている課題を見いだし，調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し，景観観察やアンケート・聞き取り調査など，さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール，新旧地形図やデジタル地図，各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ，将来に向けた地域のあり方を構想する。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地 歴	歴史総合	2 学年 農業環境科・福祉科	2 単位	歴史総合 (実教出版)	ダイアログ歴史総合 (第一学習社)

到達目標	・ 社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	近代化による国際秩序の変化、その後のグローバル化の進展に関する複数の資料を多角的に読み取り、そこから得た情報を適切に取り扱うことができた。	複数の資料を比較したり、関連付けたりして、多面的・多角的に考察し、近代化を読み解く問いを表現できた。	中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組むことができた。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到 達 目 標
歴史の扉	1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料	・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解できる。 ・身の回りの事象と世界の歴史が結び付きについて考察し、表現できる。 ・絵画や文書資料、統計データなどを事実と解釈とを区別して読み解くことの重要性や、歴史叙述の特性について理解できる。
第1編 近代化と私たち	・近代化への問い 1 章 近代化への胎動 2 章 欧米の市民革命の「西洋の衝撃」	・人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現できる。 ・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り理解できる。 ・中学校までの学習で得た知識を総合して、資料の地図データを読み解きながら、近代化以前の日本と、アジア、ヨーロッパの結びつきが考察できる。 ・市民革命により近代市民社会の基礎が築かれ、産業革命によって確立した資本主義による欧米社会の変化および国際分業体制の形成を理解できる。

	3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 4章 帝国主義の時代 ・近代化と現代的な諸課題	・1848年を境とする国民国家の形成過程を理解したうえで、第2次産業革命を経た欧米諸国の帝国主義政策が、どのように世界を変えたのかを月窮する手がかりが考察できる。 ・「西洋の衝撃」に対して、日本を含めたアジア諸国がどのように対応したのかに着目することで、欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。
第2編 国際秩序の変化や大衆化とわたしたち	・国際秩序の変化や大衆化への問い 5章 第一次世界大戦と大衆社会 6章 経済危機と第二次世界大戦 ・国際秩序の変化や大衆と現代的な諸課題	・人々の生活や社会のあり方が、国際秩序の変化や大衆化にともない変化したことについて考察できる。 ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会変化について考察できる。 ・均衡勢力に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追求できる。 ・第1次世界大戦後、国際協調のためのしくみが形成されたこと、総力戦により大衆が一層台頭するようになり、大衆社会が成立したこと、アメリカを中心に大衆文化が育まれて世界に影響を与えていったことについて理解できる。 ・ファシズム体制の形成から第2次世界大戦の終戦に至るまで、大衆とメディアとの関わりに着目しながら、大衆の戦争協力が現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・新しい国際秩序である国際連合と現実のアジア・ヨーロッパの冷戦構造のなかから戦後日本の政治の大衆化について理解できる。
第3編 グローバル化と私たち	・グローバル化への問い 7章 冷戦と脱植民地化 8章 多極化する世界 9章 グローバル化と現代世界	・人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察できる。 ・冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について、資料を読み取り理解できる。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、世界情勢にどのような影響を与えたのか、さらに私たちの生活がどのように変わったかについて考察できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
公 民	公共	1 学年 農業環境科 福祉科	2 単位	高等学校公共 (帝国書院)	ライブ！公共 2025（帝国書院），高等学校 公共ノート（帝国書院）

到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができた。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚を深めることができる。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単 元	学習内容	到 達 目 標
1 部 私たちが つくる社会	1 章 社会の中の私たち	・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様化と共通性などに着目して、社会に参画する自律した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探究できる。
	2 章 思想から学ぶべきもの	・主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して必要な事項の知識及び技能を身につけることができる。

	3章 私たちの社会の基本原理	・ 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、知識や思考力・判断力・表現力等をみにつけることができる。
2部 社会のしくみと諸課題	1章 私たちと法	・ 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を深めることができる。
	2章 私たちと政治	・ さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしくみの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解できる。 ・ 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、日本の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、みずからの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際社会における日本の役割などについて理解できる。
	3章 私たちと経済	・ 希少な資源を効率的に配分する市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政および租税の役割について理解することができる。 ・ 変化する産業構造と労働のあり方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸問題について理解できる。
3部 持続可能な社会の実現について		・ 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、現代の諸課題を探究できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
数 学	数 学 I	1 年 福 祉 科 2 年 福 祉 科	計 4 単 位	新編数学 I (実教出版)	ステージノート 数学 I (実教出版)

到達目標	数と式、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
------	---

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な概念や法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができたか。	問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けることができたか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとした数、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする取り組みができたか。

学習の評価	1 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、数学的な技能をみるための問題も出題する。 2 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (2) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
第1章 数と式	1 節 式の計算 1 整式とその加減・減法 2 整式の乗法 3 因数分解 2 節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算 3 節 1次不等式 1 不等号と不等式 2 不等式の性質 3 1次不等式	数を実数まで拡張することの意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解して、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式及び2次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 (1) 整式 式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形し、見通しをもって式を扱うことができるようにする。 (2) 実数 中学校までに扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。また、絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。 (3) 方程式と不等式 不等式の基本性質と1次不等式の解法について学び、不等式の解の意味について理解する。 2次方程式の解の公式を導き、実数解を持つ2次方程式を解けるようにする。 さらに、判別式や様々な2次方程式の取り扱いについて学び、計算ができるようにする。
第2章 集合と論証	1 節 集合と論証 1 集合 2 命題と条件 3 逆・裏・対偶	(1) 集合と命題 ベン図や表を用いて、集合の包含関係や要素の個数など集合に関する基本的な事項を学ぶ。命題、必要条件、十分条件および逆・裏・対偶などは、定義をしっかりと理解させ、できるだけ集合で使うベン図や図表を用いて考える習慣をつけさせ、論理的な思考力を伸ばす。 また、ここでは、対偶を利用した証明や背理法による証明についても扱う。
第3章 2次関数	1 節 2次関数とそのグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。

第 4 章 図形と計量	4 2 次関数の決定 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 1 2 次関数のグラフと 2 次方程式 2 2 次関数のグラフと 2 次不等式	(1) 関数とグラフ いろいろな関数を取り上げ、関数概念の理解を深める。 (2) 2 次関数の最大・最小 2 次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 (3) 2 次関数と方程式・不等式 2 次関数のグラフと x 軸との共有点を考え、2 次関数と 2 次方程式の関係について理解する。また、グラフと x 軸との位置関係から、2 次関数のグラフと 2 次不等式の関係について理解する。 鋭角の三角比の意味や相互関係、それらを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。さらに、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
	1 節 三角比 1 三角比 2 三角比の性質 3 三角比の拡張 2 節 三角比と図形の計量 1 正弦定理 2 余弦定理 3 三角形の面積 4 空間図形の計量	(1) 鋭角の三角比 正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの間の関係として導入し、その意味を理解する。 (2) 鈍角の三角比 角を鈍角や、0°，90°，180° の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようにする。 (3) 正弦定理と余弦定理 三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようにする。 (4) 図形の計量 正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようにする。
第 5 章 データの分析	1 節 データの分析 1 データの整理 2 代表値 3 四分位数と四分位範囲 4 分散と標準偏差 5 相関係数	データを整理し、数学的に考察し説明できるようにする。単に統計量を求めるだけではなく、意味を理解させるとともにそれらを利用して、データの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。 (1) データの散らばり ここでは、中学校での学習をさらに発展させて四分位数、四分位範囲、分散及び標準偏差などの用語を知り、意味を理解させるとともに、それらを利用してデータの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。 場合によっては、表計算ソフトやグラフ電卓を用いて分散や標準偏差の計算を行う。 (2) データの相関 ここでは、2 つの変量の間にはどのような関連があるかを考える。1 つの変量がもう 1 つの変量に強い関連がある場合と、ない場合がある。相関係数を用いて、その度合を計算する。 また、相関係数と散布図の関連を考察し、変量 X と Y の間の相関関係を調べる。
課題学習		実社会で活用できる題材や生徒が興味深いと感じられるテーマについて学習し、数学の有用性と奥深さを感じさせる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	科学と人間生活	1年 農 業 環 境 科	3 単 位	科学と人間生活 (実教出版)	アクセスノート 科学と人間生活 エブリィノート 科学と人間生活 (実教出版)
		1年 福 祉 科	2 単 位		

到達目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
------	--

評価の 観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	科学技術の発展と現代社会での科学技術の役割についてわかる。	昔と比較して豊かな生活を送ることができるようになったことに対する、科学技術の役割について考えることができる。 観察や実験などを通して、結果をレポートし、考察することができる。	現代社会において・科学技術の発展が生活を豊かで便利にしてきた様子と、その役割を調べようとする。

学習の 評価	- 定期考査において、A 知識・技能及びB 思考・判断・表現を評価する。 - 課題の提出状況や実験・実験レポート等でC 主体的に学習に取り組む態度を評価する。
-----------	--

単 元	学 習 内 容	到達目標
第 1 章 科学と技術 の発展	1 節 科学技術の始まり 2 節 海 3 節 土	人間は技術をもつことが特徴の生き物であることを理解する。 自然を理解することで科学と技術が発展していることを学習する。
第 2 章 物質の科学	1 節 材料とその再利用	プラスチック、金属、セラミックスがそれぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。
第 3 章 生命の科学	2 節 微生物とその利用	様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生活について学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。
第 4 章 光や熱の科学	1 節 熱の性質とその利用	熱の性質とその利用、エネルギーについて学びエネルギーの移り変わりなどについて理解する。
第 5 章 宇宙や地球 の科学	1 節 太陽と地球	身近な天体の姿や運行について学び、天体やその運行と人間生活との関係について理解する。
第 6 章 これからの 科学と人間 生活		科学と科学技術の現状から、今後の科学について考える。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理科	生物基礎	2 学年福祉科	2 単位	高校生物基礎 (実教出版)	高校生物基礎 エブリイノート(実教出版) 改訂ネオパルノート 生物基礎(第一学習社)

到達目標	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。				
------	--	--	--	--	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	・生物の進化と多様性の関係について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・実験・観察を通して、顕微鏡の使い方やスケッチの方法などの基本操作を習得するとともに、観察過程や結果を的確に記録、整理し、細胞の構造上の違いを科学的に探究する技能を身に付けている。	・生物の共通性としての細胞のさまざまなはたらきの中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・地球上に存在する多種多様な生物にも必ず共通性がみられることに関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・細胞の中には多くの細胞小器官が存在し、それらのはたらきで生命活動が行われていることに関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

学習の評価	①定期考査において、A知識・技能、B思考・判断・表現を主に評価する。 ②観察・実験などを行い、予想や考察、器具の操作等からA知識・技能、B思考・判断・表現を、観察・実験に対する姿勢、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等でC主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ③①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。				
-------	---	--	--	--	--

単 元	学習内容	到達目標
第1編 生物と 遺伝子	1 章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生物とエネルギー 【実験】 ①顕微鏡の基本操作 ②真核細胞と原核細胞の観察 ③酵素の性質	・生物の特徴に挙げられる、多様性と共通性について理解する。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・身のまわりの原核細胞・真核細胞を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・代謝とエネルギーの関係性と、その仲立ちを行うATPについて理解する。 ・代謝は酵素によって円滑に進められていることを知り、その性質について理解する。 ・代謝の代表的な反応である「光合成」と「呼吸」について理解する。 ・ミトコンドリアや葉緑体の起源を知り、その根拠から理解する。
	2 章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報とタンパク質の合成 【実験】 ④DNAの抽出 ⑤細胞周期の観察 ⑥だ腺染色体の観察	・遺伝子の本体としてのDNAについて理解する。 ・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して、生物がDNAをもつことを確認する。 ・歴史的な研究成果を追いながら、誰のどのような研究により遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について理解する。 ・体細胞分裂時の染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察する。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で発現する過程を理解する。 ・1つ1つの細胞は基本的に同じゲノムをもっているが、細胞によって発現する遺伝子に違いがあることを理解する。 ・発現する遺伝子に違いがあることを、だ腺染色体のパフを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。

第2編 生物の 体内環 境の維 持	3章 ヒトのからだの調節 1. 体内環境 2. 体内環境維持のしくみ 3. 免疫 【実験】 ⑦ブタの腎臓の観察	・脊椎動物の細胞は体液に浸されており、その状態が一定の範囲に維持されていることを理解する。 ・血液の成分と働きを理解する。 ・酸素解離曲線の意味と、酸素ヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解し、組織への酸素の受け渡し方について理解する。 ・血小板による血液凝固のしくみについて理解する。 ・体液の循環や特徴について理解する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などの働きを理解する。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿となり、必要な物質は血液中に残す働きを理解する。 ・無脊椎動物や魚類における体液の濃度調節について理解する。 ・肝臓の構造と働きについて理解する。 ・自律神経系と内分泌系がどのように働いているか理解する。 ・体内環境は、自律神経系と内分泌系が協調して働くことによって調節されていることを理解する。 ・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを理解する。 ・免疫のしくみが異常が起こることによって生じる病気があることを理解する。 ・免疫のしくみが、どのように医療に利用されているかを理解する。
第3編 生物の 多様性 と生態 系	4章 生物の多様性と生態系 1. 生態系とその成り立ち 2. 植生とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系バランスと保全	・陸上には、森林や草原などさまざまな植生があることを理解し、自分たちの住んでいる環境と比較する。 ・植生が年月を経て遷移していくことを理解する。 ・気候によって様々なバイオームがあり、世界や日本での分布の様子について理解する。 ・生態系の成り立ちを理解する。 ・生態系は一定の範囲で変動することでバランスがとれていることを理解する。 ・人間活動による生態系への影響を理解し、保全のために何をしなければならないかを考える。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	1 年普 通 科 1 年国 際 科 1 年農業環境科 1 年福 祉 科	3 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり 運動	・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・徒手体操 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・徒手体操を集団で正確に雄大に実施する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・サッカー ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	2年普通科 2年国際科 2年農業環境科 2年福祉科	2単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり運動	・体ほぐし運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・ソフトボール ・サッカー ・バレーボール ・バドミントン ・バスケットボール ・卓球	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	3年普通科 3年国際科 3年農業環境科 3年福祉科	3単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
------	--

	② 知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

学習の評価	学習状況での ①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論 体づくり 運動 ダンス 選択 A 球 技・ ダンス 選択 B 球 技 選択 C 球 技	・オリエンテーション ・集団行動 ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト) ・フォークダンス ・リズムダンス ・ソフトボール ・テニス ・サッカー ・バドミントン ・ダンス ・卓球 ・ビーチボール ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・卓球 ・バスケットボール ・卓球 ・バドミントン	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方を理解する。 ・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高められるように工夫する。 ・伝統的なダンスを習得する。 ・体育大会用のダンスを創作し、表現と発表の資質を養う。 ・意欲的な態度で種目決定が行える。 ・班や個人の技量に応じた目標を立て、工夫した活動計画の立案ができる。 ・班毎に協力しながら活動し、技能をたかめることができる。 ・競技の特性を理解し、安全に留意し活動ができる。また、競技方法やルールを理解し、ゲームができる。 ※ 選択 A と同様 ※ 選択 A と同様

教科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	保 健	1 年普 通 科 1 年国 際 科 1 年農業環境科 1 年福 祉 科	1 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

学習の評価	定期考査で①知識及び技能や②思考・判断・表現について、学習状況で①②③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
現代社会と健康	- 健康の考え方と成り立ち - 私たちの健康のすがた - 生活習慣病の予防と回復 - がんの原因と予防 - がんの治療と回復 - 運動と健康 - 食事と健康 - 休養・睡眠と健康 - 喫煙と健康 - 飲酒と健康 - 薬物乱用と健康 - 精神疾患の特徴 - 精神疾患の予防 - 精神疾患からの回復 - 現代の感染症 - 感染症の予防 - 性感染症・エイズとその予防 - 健康に関する意思決定・行動選択 - 健康に関する環境づくり	- 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 - 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わっていることを考察する。 - 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられることやその予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。 - 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 - 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になることや薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。また、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを考察する。 - 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解する。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを考察する。
安全な社会生活	- 交通事故の現状と発生要因 - 安全な社会の形成 - 交通における安全 - 応急手当の意義とその基本 - 日常的な応急手当 - 心肺蘇生法	- 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。 - 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わっていることを理解する。また、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを十分に理解する。 - 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや応急手当には、正しい手順や方法があることを理解する。 - 応急手当は、障害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。また、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる。

教科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	保 健	2年普 通 科 2年国 際 科 2年農業環境科 2年福 祉 科	1 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
------	--

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習の評価	・定期考査で①及び②について、学習状況で①、②、③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
社会生活と健康	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医療品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 ・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸術	音楽Ⅰ	1年 普通科 1年 国際科 1年 農業環境科 1年 福祉科	2 単位	ON! 1 (音楽之友社)	Music Note (啓隆社)

到達目標	・歌唱・器楽・鑑賞などの幅広い活動を通して、音楽を愛好する心を身に付けるとともに、感性を豊かにし、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・互いの個性を理解し、認め合うことで、より幅の広い視野や価値観を身につける
------	---

評価の観点	知識・技術	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断表現	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学習の評価	①筆記テスト、実技テストによる評価 ②プリントや感想等の提出内容による評価 ③授業時の取り組み、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
	「オリエンテーション」 ・音楽Ⅰの授業の進め方について	・授業の進め方を理解することができる。
歌唱	「歌を歌おう」 「様々な言語で歌おうⅠ」 「様々な言語で歌おうⅡ」	・楽曲の良さを感じ取り、無理のない発声で、歌うことができる。 ・イタリア語の歌曲に触れ、のびやかな発声を身につけることができる。 ・英語の楽曲の良さを感じ取り、発音に気をつけて、無理のない発声で、のびやかに歌うことができる。 ・ドイツ語の発音に慣れ、発音に気をつけて、のびやかにドイツ歌曲を原語で歌うことができる。

楽典 器楽 創作	「楽譜の読み方」 「リズムうち」 「和音」 「伴奏付け」 「創作」	・基礎的な楽譜の読み方を身につけることができる。 ・習得した知識を元に、簡単なリズム打ちができる。 ・和音について、基礎的な内容を理解できる ・和音について理解した知識を元に簡単な旋律の伴奏付けをすることができる。 ・これまで習得した知識を元に、簡単な旋律の作曲をすることができる。 ・自作の曲に、和音付けをすることができる。
器楽	「箏に親しもうも う」	・箏の基礎的な奏法を理解できる。 ・平易な曲を練習し、演奏することができる。
鑑賞 音楽 史	「いろいろな曲を鑑 賞しよう」 「西洋音楽史、日本 音楽史」 「近代～現代音楽」	・様々な曲に興味を持って、その曲の良さを感じ取り主体的に鑑賞することができる。 ・鑑賞をとおして、それぞれの時代の音楽的な特徴や歴史的背景を理解することができる。 ・様々な時代の音楽史について知り、その特徴を理解することができる。
歌唱 器楽 鑑賞	「ミニコンサート」	・個人またはグループで、演奏する曲を決め、主体的に友達と協力しながら、練習に取り組むことができる。 ・人前で発表することを意識し、表現を工夫することができる。 ・友達の演奏を聴き、演奏の良さを感じとりながら、鑑賞できる

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	美術 I	1 年普通科 1 年国際科 1 年農業環境科 1 年福祉科	2 単位	高校美術 (日本文教出版)	

到達目標	- 鑑賞を通じて、造形的な見方・考え方を学ぶとともに、確かな描画や造形の基礎力を身に付け、生涯を通じて芸術に親しむ心情を養う。 - 互いの個性を理解し認め合うことで、より幅の広い視野や多様な価値観を身に付ける。
------	--

評価の観点	知識・技能	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
	思考・判断 ・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

学習の評価	① 制作した作品による評価 ② プリントや感想等の提出内容による評価 ③ 授業時の取組、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
オリエンテーション	「美術 I について」	高校美術の学習の意義・自然と人間・生活や歴史と美術の関わりについて理解する。
表現 絵画	「クロッキー」 「デッサン」	- 形の捉え方を理解し、線の強弱を用いて表現ができる。 - 構造的に形を把握し、明暗や質感を描くことができる。
表現 絵画	「鉛筆画」	- 構図を考えて、モチーフを配置することができる。 - 明暗で立体感と奥行きを表現できる。 - モチーフの質感を描くことができる。
表現 絵画	「自画像」	- 自己の内面も表現できるよう、構図やアングル、表情、色彩などを組み合わせ構想することができる。 - 色のもつ特性や効果を理解し、色塗りすることができる。

鑑賞	「西洋美術史」	・ギリシャ文明・ローマ美術・ロマネスク美術・ゴシック美術の代表的な建築物や美術作品について、作者や特徴など説明できる。 ・ルネサンスの三大巨匠の作品について説明できる。
表現 デザイン	「ロゴデザイン」	・ロゴデザインのもつ役割について理解できる。 ・ロゴに必要な要素について理解できる。 ・色のもつイメージを理解し、配色に生かすことができる。
表現 彫刻	「異素材の組み合わせによる立体」	・質感や量感、動勢を意識した造形ができる。 ・それぞれの素材の持つ特性を生かして構成し、表現することができる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	書道Ⅰ	1年普通科 1年国際科 1年農業環境科 1年福祉科	2単位	書Ⅰ (光村図書)	

到達目標	・書の表現方法や多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基本的な技能を身に付けるようにする。 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構成し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
------	--

評価の観点	知識・技能	・書の専門的な知識について理解している。 ・用筆、運筆、字形のとり方などの特徴を捉えて書く力を身に付けている。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
	主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

学習の評価	・学習活動への参加状況（制作活動への取り組み状況） ・学習記録 ・制作作品（完成度）
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
オリエンテーション	書道の学習分野 書写から書道へ	・書道の学習分野や国語科書写と芸術科書道の違いを理解する。 ・漢字の成り立ちと書体の変遷について理解する。 ・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、正しく丁寧に扱う。
漢字の書	楷書古典の鑑賞・臨書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 造像記 鄭義下碑 篆刻 印稿作成、運刀 押印・鑑賞	・古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。 ・篆刻の用具・用材について理解し、篆刻の基礎的な技法を身に付ける。

	漢字作品の創作 行書古典の鑑賞・臨書 蘭亭序 風信帖	・創作の手順を理解し、学んだ古典の特徴や技法を生かして創作する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・行書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
仮名の書	仮名の基礎 基本点画 いろは歌 連綿 散らし書き 古筆の鑑賞・臨書 蓬萊切 高野切	・仮名の成立や仮名の種類などについて理解する。 ・仮名の用具・用材と特徴について理解する。 ・仮名の線質について理解し、単体や連綿の基礎的な技法を身に付ける。 ・「行書き」と、「散らし書き」の紙面構成法について理解する。 ・平安古筆の風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じりの書の鑑賞・創作 生活の中の書	・身近にある漢字仮名交じりの書を知る。 ・漢字と仮名の調和を図りながら紙面構成を考え、創作する。 ・表現の意図に合うように、用具用材、字形、用筆等に工夫する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・生活の中の書について考え、その効用について理解する。（硬筆・手紙の書等）

令和7年度 英語コミュニケーションⅠ 公開用シラバス

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	副教材
外国語 (英語)	英語コミュニケーションⅠ	1年 農業環境科 福祉科	3単位	LANDMARK Fit English CommunicationⅠ (啓林館)	教科書準拠 ワークブック サブノート

到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、概要や要点をとらえる。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえる。 3. 聞いたり読んだり、学んだことから情報や考えなどについて話し合い、意見交換をする。 4. 聞いたり読んだり、学んだことから情報や考えなどについて簡潔に書く。
------	---

	思考・判断・表現	知識・技術	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。

学習の評価	1. 授業中の活動への取り組み状況。 2. 課題の提出状況。 3. パフォーマンステスト（スピーチ、プレゼンテーションなど） 4. 定期考査（中間考査、期末考査）
-------	--

単元	学習内容	到達目標
Preparatory Lesson	自己紹介をペアやグループで行う	クラスメイトの自己紹介を聞いて話し手の情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 クラスメイトとの自己紹介を通して、自分の情報や考えを伝え合うやり取りを続ける。 自己紹介を通して、自分の情報や考えを話して伝える。
Lesson 1 Enjoy Your Journey!	新生活での新たな目標の見つけ方	これからの高校生活で関心があることについての話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 高校生活における目標設定について書かれている文章を読み、不定詞や動名詞の意味や構造を理解する。また文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。高校生活で関心がある学校行事について、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。 自分がこれから挑戦したいことについて、自分の考えを話して伝える。チャレンジリストを作成し自分がこれから挑戦したいことについて、自分の考えを書いて伝える
Lesson 2 Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	好きなカレーについての会話から必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。カレーの歴史と現在の様子についての文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要を捉える。また、文章を通して受動態や現在完了形の意味や構造について、理解する。 食べたことがあるカレー料理について、自分の経験や好み等の情報を伝え合うやり取りを続ける。自分の好きなカレーについて、食材や味などの情報を話して伝える。自分の好きなカレーについて、食材や味などの情報を文章に書いて伝える。
Lesson 3 School Uniforms	世界の制服事情	学校の制服についての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。学校の制服についての文章を読んで必要な情報を読み取り、要点を捉える。また比較の表現や、分詞、関係代名詞の意味や構造を理解する。自分が通っている学校の制服について、自分の考えや気持ちを伝え合う。学校の制服着用について賛成か反対か、自分の考えを相手に話して伝える。学校の制服着用について賛成か反対か、自分の考えを文章に書いて伝える。

Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	日本の世界遺産についてのスピーチを聞いて必要な情報を聞き取り、スピーチの要点を捉える。屋久島のエコツアーについての文章を読んで、必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、関係代名詞や関係副詞の意味や構造を理解する。自分が訪れてみたい世界遺産について、自分の考えや気持ちを話して伝え合う。自分が訪れたことがある、または訪れてみたい日本の世界遺産について、その場所についての情報や自分の考えを話して伝える。自分が訪れたことがある、または訪れてみたい日本の世界遺産について、その場所についての情報や自分の考えを文章に書いて伝える。
Lesson 5 Bailey the Facility Dig	病院で働くファシリティドッグ、ベイリーについて	ファシリティドッグ導入に賛成か反対かについての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。ファシリティドッグについての文章を読んで必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、不定詞の意味上の主語や間接疑問文、依頼の表現、原形不定詞を使用する表現について、理解する。飼っているペットや好きな動物について、自分の考えや気持ちを話して伝え合う。ファシリティドッグの導入について賛成か反対か、自分の考えを話して伝える。ファシリティドッグを導入することについて賛成か反対か、自分の考えを文章に書いて伝える。
Lesson 6 Communication without Words	世界の国々の言葉を用いないコミュニケーション	ジェスチャーが持つ意味について話されている会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。世界の非言語コミュニケーションについて書かれている文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。また be 動詞の補語になる that 節を含む表現や、対比を表す表現、形式目的語、間接疑問文の意味や構造を理解する。自分が話す時によく使用しているジェスチャーとその利点について、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。自分が関心を持っている非言語コミュニケーションについて、その意味や自分の考えを話して伝える。自分が関心を持っている非言語コミュニケーションについて、その意味や自分の考えを文章に書いて伝える。
Supplementary Lesson	パラグラフを書いてみよう！	クラスメイトの好きなものについての発表を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。クラスメイトの好きなものについて書かれた文章を読んで必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する。自分の好きなものについて、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。作成したパラグラフを参考にしながら自分の好きなものについて、自分の考えを話して伝える。つなぎ言葉を用いて論理性を意識しながら、自分の好きなものについての情報や考えを書いて伝える。
Lesson 7 Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信したメッセージとは	インターネットの活用方法について話している会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を聞き取る。バナの平和への思いとソーシャルメディアを利用した平和活動についての文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、関係代名詞や関係副詞の非限定用法、分詞構文の意味や構造を理解する。インターネットの良い点、悪い点についての自分の考えを、理由を示しながら伝え合う。インターネットの良い点、悪い点について自分の考えを、書いた文章をもとにしながら話して伝える。インターネットの良い点、悪い点について自分の考えを、理由を示しながら文章に書いて伝える。
Lesson 8 The Best Education to Everyone, everywhere	社会起業家の思いと挑戦	将来就きたい職業についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、会話の要点を捉える。社会起業家について書かれた文章を読み、必要な情報を読み取り、概要を捉える。また、less を用いた比較の表現、知覚動詞を用いた表現や過去完了形、仮定法過去の意味や構造を理解する。将来自分が就く職業を選ぶ際に重要なことについて、自分の考えを伝え合うやり取りを行う。将来自分が就きたい職業について、理由を示しながら自分の考えを話して伝える。将来自分が就きたい職業について、理由を示しながら自分の考えを文章に書いて伝える。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭 総合	2・3年 福祉科	4 単 位	高等学校 新版 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	資料集 最新生活ハンドブック資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
------	---

評価の観点	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を身に付けている。

学習の評価	知識・技術 ・定期考査 および 実習 思考・判断・表現 ・定期考査 および ワークシート、話し合い等での考察力、問題解決能力 主体的に学習に取り組む態度 ・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物と、その内容は充実度。 ・授業態度、実験・実習等に主体的・積極的に参加しているか。 ・ホームプロジェクトにおける達成度。 以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブ活動とは		・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解する。
1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計 第2節 家族・家庭と社会	1. 生涯発達する自分 2. 青年期を生きる 1. 家族・家庭・世帯 2. 家族・家庭の働き 3. パートナーと出会う 4. 結婚と変化する家族 5. 家族に関する法律	・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。また、現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。 ・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。
2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達 第2節 子どもの生活 体験 子どもとのかかわり方を学ぶ	1. 次世代をはぐくむ 2. 乳幼児の心と体の発達 3. 乳幼児の心の発達 1. 乳幼児の生活と安全 3. 子どもの成長と遊び 体験 子どもとのかかわり方を学ぶ	・子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生み育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考えることができる。 ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。さらに、母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。 ・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。 ・乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には個人差はあるが、一定の方向性や順序性があること、言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることや、乳児期の親との関わりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解できるようにする。
第3節 子育て支援と福祉	1. 地域社会と子育て支援	
3章 充実した生涯へ	1. 超高齢社会を生きる 2. 人生のなかで高齢期をとらえる 3. 高齢期の生活	・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。 ・長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。 ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 ・加齢にともなうすべての機能が衰えるわけではなく、成熟期として捉えられる面もあることや、個人差が大きいことを理解する。 ・ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。 ・生涯を通して誰もが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会の構築のために、協力・協働の視点からどのような理念や社会的支援およびシステムが必要かなどについて考え、工夫する。
4章 とともに生きる	1. 社会保障制度と社会的連帯 2. 人の多様性と社会参加	
5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事	1. 私たちと食事 2. 健康に配慮した食生活	・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高めるとともに、食事の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解できるようにする。

第2節 栄養と食品	1. 人体と栄養 2. 各種栄養素	ることを理解するとともに、人間の体の生理的周期を知り、なぜ朝食をきちんと とる必要があるかを考える。
第3節 食生活の安全のために	1. 食品の選択と保存 2. 食品の安全と衛生	・栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって、生活習慣病や心身の不調 がもたらされることを知り、食生活にかかわる情報を適切に判断することがで きる。
第4節 食生活をデザインする	1. 栄養バランスのよい食事 2. 食品群と摂取量のめやす 3. ライフステージと食事 4. 献立作成の手順 5. 調理の基本	・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・身体活動レベルについて理解し、そのときの自分がどの身体活動レベルにあた るかを確認する。
調理実習	調理実習	
6章 衣生活をつくる	1. 私たちと衣生活	・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸でみると、ライ フステージによっても違ってくことを理解する。
第1節 人の一生と被服	2. 被服の機能 3. 被服の選び方	・乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 ・被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 ・人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快 適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。
第2節 被服材料と管理	1. 被服の素材 2. 洗濯方法と表示 3. 被服の手入れと保管	・代表的な布として、織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交 錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り 上げて確認する。
第3節 これからの衣生活	1. 衣文化の継承と創造 2. 持続可能な衣生活	・さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。 ・洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質 に応じて洗濯することを学習する。
第4節 被服の製作 被服製作実習	被服製作実習	・家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配 慮した洗濯の工夫について考えるとともに、中古衣料のリユースやリフォーム の工夫や、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。
7章 住生活をつくる	1. 私たちと住まい	・人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生にさかのぼって考える。
第1節 人の一生と住まい	2. 平面図の活用 3. 住まいのインテリア 4. 生涯を見通した住まいの工夫	・昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞ れの時代の家族のあり方や住まい方を考える。 ・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機 能について理解するとともに、生活行為と住空間とのかわり、生活行為や動作 に必要な広さ、動線などについて理解する。
第2節 住生活の計画と選択	1. 快適で健康な住まい 2. 安全で安心な住まい 3. 持続可能な住まい	・地震などの自然災害や、火災などの人的災害への対策について考える。 ・家庭内事故の原因について知り、乳幼児や高齢者、障害者などの家庭内事故を 防止するためにはどのような安全対策が必要か考える。
8章 経済生活をつくる	1. 人生とお金	・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることや、家 族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であ ることを理解する。
第1節 私たちの暮らしと経済	2. 収入と支出のバランス 3. 将来の経済生活を考える	・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 ・家庭経済と国民経済とのかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影 響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識す る。
第2節 消費者問題を考える	1. 契約とは 2. 消費者問題はなぜ起こるのか 3. 多様化する支払い方法とリスク 4. 消費者の自立と行政の支援	・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っ ていこうという態度を養う。
第3節 持続可能な社会	1. 消費生活と持続可能な社会 2. 消費者市民社会をめざして	・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについ て考えさせる。 ・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように 工夫していく必要性を理解する。 ・次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認 識する。 ・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和 したライフスタイルの確立をはかる。 ・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する 姿勢を身につける。 ・消費行動を通して社会に参画することができる。

教科	科目	対象学年 学科	単位数	教科書	使用教材
福祉	社会福祉基礎	1, 2, 3年 福祉科	4 単位	社会福祉基礎 (実教出版)	社会と制度の理解 (最新・介護福祉士養成講座2 (第2版)・中央法規出版)

到達 目標	① 社会福祉に関する基礎的な知識を習得する。 ② 現代社会における社会福祉の意義や役割を理解する。 ③ 人間としての尊厳の認識を深める。 ④ 社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。
----------	--

評価の 観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活や自立の概念、家族の形態や機能と役割、少子高齢化の進行と介護の社会化などについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活や自立の概念、家族の形態や機能と役割、少子高齢化の進行と介護の社会化などに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	生活や自立の概念、家族の形態や機能と役割、少子高齢化の進行と介護の社会化などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学習の 評価	① 定期考査で主に【知識・技術】【思考・判断・表現】を評価する。 ② 授業や実習・調査・研究に取り組む態度やワークシートやレポート作成状況により【知識・技術】と【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】を評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-----------	--

単元	学習内容	到達目標
〈1年〉 第1編 社会福祉の理念と意義 第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	1 生活と福祉 2 社会福祉の理念 3 人間の尊厳と福祉社会の創造 1 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 2 子ども家庭福祉 3 障害者福祉 4 高齢者福祉 5 生活支援のための公的扶助 6 国民生活を支える社会保障制度	・時代の変化に伴うライフサイクルの変化、多様化について理解し、ライフステージにおける社会福祉施策との関わりを把握する。 ・「人間の尊厳」という価値を理解し、利用者本位の支援のあり方を考察する。 ・社会保障制度の意義、役割、範囲を理解する。 ・子ども、高齢者、障害者の福祉について理解し、今後のあり方について考察する。
〈2年〉 第2編 社会福祉の歴史 第4編 人間関係とコミュニケーション	1 諸外国における社会福祉 2 日本における社会福祉 1 コミュニケーションの基礎 2 援助における人間関係の形成 3 社会福祉援助活動の概要	・各諸外国の社会福祉の歴史的変遷を理解するとともに、日本に与えた影響を考察する。 ・人間関係を構築する上でのコミュニケーション技法や社会福祉援助活動に対する基礎的な知識を身につける。

第 5 編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 ＜ 3 年 ＞ 第 3 編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 介護福祉士 国家試験受験対策	1 地域福祉の進展と地域の将来 2 多様な社会的支援制度 3 社会福祉の将来と福祉の担い手 1 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 3 障害者福祉 5 生活支援のための公的扶助 6 国民生活を支える社会保障制度 1 人間の理解 2 社会と制度の理解	・言語コミュニケーション及び非言語コミュニケーションを駆使し、適切に人間関係を構築する技術を身につける。 ・地域福祉における諸活動、社会的支援制度及び社会福祉の担い手に関する基礎的な知識を理解する。 ・多様化する福祉社会について思考を深め、将来における福祉社会への展望を的確に考察する。 ・社会保障の定義や目的、機能について理解する。 ・自分たちの生活や人生の中での社会保障の位置づけについて理解する。 ・介護保険制度創設の目的を理解する。 ・要介護認定からサービス利用までの流れを理解する。 ・介護保険制度に関わるそれぞれの組織の役割を理解する。 ・今後の介護保険制度のあり方について考える。 ・障害者福祉制度における障害概念について、これまでの歴史を踏まえて理解する。 ・障害者自立支援制度（障害者総合支援法）のねらいと見直しにかかわる動向について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類と内容を理解する。 ・生活保護制度と社会手当制度について理解する。 ・社会保障の定義や目的、機能について理解する。 ・将来にわたって持続可能な社会保障制度を構築するにはどうしたらよいかについて考察する ・国家試験合格に向けて、学習内容を反復して学習し、理解する。
--	---	--

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
福 祉	介護総合演習	1, 2, 3年 福祉科	3 単位		介護総合演習・介護実習 (最新・介護福祉士養成講座10 (第2版) ・中央法規出版)

到達目標	①地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	--

評価の 観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・介護実習が適切かつ総合的に展開できるよう、介護実習の意義や目的などについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ・事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・介護実習を通して個人情報保護やリスクマネジメントについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 ・介護実習や福祉活動などから得た体験についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	・地域での継続した生活を支援する介護実習について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・介護実習や福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学習の 評価	①実習Ⅰ・Ⅱの施設の理解をはじめとした事前学習や事後の振り返りにおいて【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】を評価する。 ②事例研究などに取り組む態度、ワークシートやレポート作成状況、研究成果の発表状況により【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】を評価する。 ※上記の①・②より多角的、総合的に評価する。
-----------	--

単元	学習内容	到達目標
< 1 年 > 介護総合演習で何を学ぶか	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的	・介護実習の意義や目的、内容について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・介護実習に臨むにあたっての課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
介護実習で何を学ぶか	介護実習の意義と目的 介護実習の種類 実習前の学びと、実習後の学びのいかし方	・介護実習の意義や目的、内容について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
介護実習準備、実習中・実習後の学び	介護実習前の学習の内容と方法 介護実習前の学習の意義と目的 介護実習前の流れ 介護実習中の学習の内容と方法 実習中の態度 日々の行動目標 観察と考察 報告・連絡・相談 実習中の事故や不測の事態への対応 介護実習後の学習の内容と方法 介護実習後の学習の意義と目的 介護実習後の流れ	・実習生としての役割や心構え、危機管理や個人情報保護、様々な社会福祉施設の役割等について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・実習を通して、介護の知識や技術を実践と結びつけ、今後の実習における自己の課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ・実習生としての役割や心構え、危機管理や個人情報保護、様々な社会福祉施設の役割等について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
実習先の特徴、実習先での学び	通所介護、通所リハビリテーション グループホーム、小規模多機能型居宅介護 障害者支援施設	・実習施設やその施設での実習を通して学ぶべきことを理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
実習Ⅰの展開	実習Ⅰのねらいと実習モデル 利用者とは出会い、その暮らしを知る介護実習 介護技術の実践を軸にした介護実習 家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	・施設実習での学習に対する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・実習施設やその施設での学習を通して学ぶべきことについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

< 2 年 > 実習先の特徴 実習先での学び	通所介護、通所リハビリテーション 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設	・実習で体験する場面を想定し、それに応じた対応について演習を通して実践的な技術を身につける。 ・実習記録等による振り返りから、学んだことや気づいたこと等を整理し、今後の課題を明確にし、適切に表現する。
実習Ⅰの展開	実習Ⅰのねらいと実習モデル 利用者との出会い、その暮らしを知る介護実習 介護技術の実践を軸にした介護実習 家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	
実習Ⅱの展開	実習Ⅱのねらいと実習モデル 介護過程を展開する介護実習	・受け持ち利用者の介護過程の展開（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、モニタリング）に関する基礎的な知識・技術を身につける。 ・介護過程の展開後の振り返りから学んだことや気づいたこと等を整理し、今後の課題を明確にし、適切に表現する。
< 3 年 > 実習Ⅱの展開	実習Ⅱのねらいと実習モデル 介護過程を展開する介護実習	
介護総合演習の 実際	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護観の形成	・介護や福祉の分野における諸課題及びその課題解決に関する基礎的な知識 ・技術を身につける。 ・事例研究に必要な資料や情報等を収集し、適切に活用する。 ・事例研究の過程やその結果を適切に表現する。

教 科	科 目	対 象 学 年 学 科	単 位 数	教 科 書	使用教材
福 祉	福祉情報	1 年福祉科	2 単位		福祉情報活用（実教出版） ビジネス文書実務検定模擬 試験問題集3級（実教出版）

到達目標	① 高度情報通信社会の中で、情報を取り扱う時のルールやマナーを正しく理解する。 ② 情報活用に関する知識と技術を身につけ、福祉の各分野で情報や情報手段を活用することができる。
------	--

評価の 観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報機器の役割や情報システムについて理解していると同時に、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が社会や家庭に及ぼす影響について課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	情報機器や情報システムなどについて自ら学び、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 情報機器の役割や情報システムについて理解していると同時に、関連する技術を身に付けている。

学習の 評価	① 定期考査で主に【知識・技術】【思考・判断・表現】を評価する。 ② 授業や演習に取り組む態度やワークシートやレポート作成状況により【知識・技術】と【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】を評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-----------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
第 2 章 情報モラルと セキュリティ	1 ネットワーク社会の危険性 2 情報モラルとマナー 3 セキュリティ管理	・ 情報に関する法規やマナー、情報社会において個人の果たす役割や責任などについて理解すると同時に、関連する技術を身に付ける。 ・ 情報を扱う上で必要な情報モラルについて課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 情報を扱う上で必要な情報モラルについて自ら学び、主体的かつ協動的に取り組む。
第 1 章 情報化の進展 と生活産業		
第 3 章 福祉分野にお ける情報活用	1 福祉分野における情報活用の意義 2 福祉サービスにおける情報機器活用の実際 3 福祉分野における個人情報の管理	・ 福祉サービスの各分野における情報機器や情報通信ネットワークの効果的な活用方法について理解すると同時に、関連する技術を身に付ける。 ・ 福祉サービスの各分野における情報機器や情報通信ネットワークについて課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 福祉サービスの各分野における情報機器や情報通信ネットワークの効果的な活用方法について自ら学び、主体的かつ協動的に取り組む。
第 4 章 情報機器の仕 組み	1 コンピュータのしくみ 2 ハードウェア 3 ソフトウェア	・ 情報機器の基本的な機能と必要な周辺機器の仕組み、ソフトウェアの役割と特徴について理解すると同時に、関連する技術を身に付ける。
第 5 章 情報通信ネッ トワーク	1 情報通信ネットワークのしくみ 2 通信ネットワークの利用	・ 情報機器の基本的な機能と必要な周辺機器の仕組み、基本的なアルゴリズムやプログラムの活用について課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。

第 6 章 情報の処理・分 析・発信	1 日本語ワードプロセッサの利 用 2 表計算ソフトの利用 3 画像処理ソフトの利用 4 プレゼンテーションソフトの 利用 5 Web ページ作成ソフトの利用 ビジネス文書実務検定 3 級に向 けての実技練習	・情報機器の基本的な機能と必要な周 辺機器の仕組み、ソフトウェアの役割 と特徴について自ら学び、主体的かつ 協動的に取り組む。 ・適切なアプリケーションソフトウェ アを活用した情報の収集・整理・分析 ・発信について理解するとともに、関 連する技術を身に付ける。 ・情報機器や情報ネットワークを活用 した情報の収集・整理・分析・発信に ついて課題を発見し、科学的な根拠に 基づいて解決する。 ・情報機器や情報通信ネットワークを 活用した情報の収集・整理・分析・発 信について自ら学び、主体的かつ協働 的に取り組む。
第 7 章 ICT を活用した 自立生活支援	1 ICT の利活用の意義 2 自立生活支援への ICT の利活 用	・高齢者や障害者の社会参加や多様で 継続的な交流、自立生活の支援など福 祉サービスの質の向上につながる情報 機器や情報通信ネットワークの効果的 な活用方法について理解するととも に、関連する技術を身に付ける。 ・情報機器や情報通信ネットワークを 活用した高齢者や障害者の社会参加や 多様で継続的な交流、自立生活の支援 方法について課題を発見し、科学的な 根拠に基づいて創造的に解決する。 ・福祉サービスの質の向上につながる 情報機器や情報通信ネットワークの効 果的な活用方法について自ら学び、主 体的かつ協動的に取り組む。